

(様式2)

平成29年度全国・東京都・荒川区学力調査に関する結果分析シート

学校名 荒川区立第六日暮里小学校

| 調査名                                      | 分析   | 実施結果(正答率)   |   |
|--|--|---|---|
|  |  | 区   | 自校  |
| 区<br>学<br>力<br>調<br>査<br><br>全<br>学<br>年 | 全学年、実施全教科の78%に渡って、平均値を上回った。区平均を下回ったものは、3年の算数、4年の国語、理科、6年の国語の4つであった。<br>【学年別分析】<br><1年生><br>2教科とも全観点別で区・全国平均を上回り、特に算数の数学的な考え方では区を12.8、全国を17.5ポイント上回った。<br><2年生><br>2教科とも区・全国を上回った。<br><3年生><br>算数は、区・全国平均を2.3、1.0ポイント下回った。その他は上回っている<br><4年生><br>国語、理科で下回っている。特に2教科とも活用の表現力が低い。算数、社会では、基礎が上回った。<br><5年生><br>全観点別について平均を上回った。<br><6年生><br>国語以外は上回っている。国語では基礎が2ポイント下回った。<br><br>※全学年、全教科について、誤答の分析を行った。誤答率の高いものについて、授業の中で取り上げ、教科書を活用して再度学習し直した。<br><br>※国語、算数においては、全学年を総合した「総合達成率」がそれぞれ85.4%、82.4%となり、どちらも80%以上となった。<br>理科において、「総合達成率」が67.1%であることから、詳細に分析をした結果、4年生の活用が低いことが分かった。教科書と照らし合わせ、弱点の習熟を図った。 | 1年<br>国 80.2 算 82.0<br>2年<br>国 85.5 算 84.8<br>3年<br>国 80.6 算 78.0<br>4年<br>国 72.2 社 76.3<br>算 79.7 理 65.7<br>5年<br>国 75.4 社 70.4<br>算 71.6 理 61.9<br>6年<br>国 74.6 社 67.8<br>算 66.4 理 64.6 | 1年<br>国 89.0 算 90.5<br>2年<br>国 87.1 算 89.3<br>3年<br>国 82.8 算 75.7<br>4年<br>国 70.0 社 78.3<br>算 80.1 理 61.9<br>5年<br>国 79.0 社 72.7<br>算 78.1 理 67.5<br>6年<br>国 73.5 社 71.1<br>算 69.9 理 67.0 |

|  |   |            |            |
|--|---|------------|------------|
| 都<br>学<br>力<br>調<br>査<br><br>小<br>5      | <p>・ 4教科とも都の平均値と同様か、もしくは上回っている。</p> <p>【観点別について】</p> <p>・ 関心・意欲・態度は4教科とも都より下回っている。特に社会では、50%の正答率である。</p> <p>・ 技能、知識・理解については、どの教科とも平均値を上回っていることから、基本的な内容の習得は図れていると考えられる。そのことが、さらに発展して次の学習への意欲へと繋がり、集団としても学び合いが展開できるように発展させたい。</p> <p>【読み解く力について】</p> <p>&lt;上回っているもの&gt;</p> <p>国語 読み取る力</p> <p>社会 取り出す力、解決する力</p> <p>算数 読み取る力、解決する力</p> <p>理科 取り出す力、読み取る力 以上</p> <p>その他が下回っている。</p> <p>このことから、力そのものに偏りがあるとは考えにくい。そのため、実施した問題を活用して弱点を補強する学習を行った。</p> | <b>都</b>   | <b>自 校</b> |
|  |   | 5年         | 5年         |
|  |   | 国語 67.8    | 国語 69.7    |
|  |   | 社会 71.1    | 社会 71.3    |
|  |   | 算数 61.4    | 算数 63.5    |
|  |   | 理科 71.6    | 理科 75.3    |
| 全<br>国<br>学<br>力<br>調<br>査<br><br>小<br>6 | <p>全体的には、国語、算数のA、Bとも全国平均を上回った。</p> <p>正答数分布グラフからは、上位層と下位層に隔たりが生じ、学力格差のある状況を読み取ることができる。また、国語、算数ともに問題Aは正当分布の15問中12問以上が多いのに比べ、問題Bでは、正答数が国語では全体に別れ、算数では11問中2～7問に多い。このことから基礎学力はあるものの、発展活用型の問題を解く力が身につけていないことが分かる。</p> <p>下位層の児童については、2教科のABともに得点が低く、基本的な習熟が図れていない状況が浮き彫りとなっている。しかし、6年生児童の中に、年度途中から寺子屋に通う児童が増加してきたため、学習意欲の向上を図りながら基礎基本を定着させてきた。</p>   | <b>全 国</b> | <b>自 校</b> |
|  |   | 6年         | 6年         |
|  |   | 国語A 74.8   | 国語A 75     |
|  |   | 国語B 57.5   | 国語B 59     |
|  |   | 算数A 78.6   | 算数A 79     |
|  |   | 算数B 45.9   | 算数B 49     |